
MIND GENERATION CONTACT IF

無山

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

M I N D G E N E R A T I O N C O N T A C T I F

【Nコード】

N 0 4 0 3 Z

【作者名】

無山

【あらすじ】

川神市 ここに、様々な正義と悪の勢力が集い、壮絶なる奇妙な物語の幕が上がるうとしていた……。

この小説は、完全に作者の自己満足できているカオスな内容のため、必ず「はじめに」を読んだ上で判断願います： m (——) m

はじめに

「よーっと！ やあみんな。俺はウルトラマンゼロ、ウルトラセブンの息子だ。」

今回は、作者に代わってちよいと警告をさせてもらうぜ！

本当は作者が直々にやろうとしたんだが、なんかやたらウザくなりそうだったんで俺に任されたんだ……やれやれだぜ。

おっと、このセリフは承太郎が言うべき台詞だったかな（笑）

で、その警告とは以下の通りだ。

1・この小説は作者が『息抜き』で書く『100%自己満足』の力オスなクロスオーバー小説である。

2・『キャラ崩壊』や『オリジナル設定』も有り。

3・ストーリー性があつたりなかったりもする。

4・そのため一気に『手抜き』になったりグダグダだったりもする。

…とまあこんな感じか？

ちなみにこの小説のタイトルだが……

M I N D G E N E R A T I O N C O N T A C T I F

和訳：マインドジェネレーションコンタクトイフ

マ インド

ジ エネレーション

コ ンタクト
イ フ

…と、こんな感じで完全にふざけてるな……。

まあそんな訳で、よっぽど暇じゃない限りは読まないようにと、もし読んで不満があっても怒らないようにとが、作者からお願いだぜ。

これを踏まえた上で、読んでくれる場合は覚悟して楽しんでくれよな！

それじゃあ、そろそろエネルギーも残り少なくなってきたし、またな！」

はじめに（後書き）

ついにやってしまった……。

ゼロに代弁させた通り、そういうものになるのでそれぞれの原作を大事にしたい方は読まないことをお勧めします…

そんなものなら投稿するなって声もありそうですが、まあ問題があればすぐ消しますので^^；

ブローグ

ここは日本神奈川県川崎市。

ここ多馬川の川原に、ただひたすらに正拳突きを繰り返す人物がいた。

体には特殊な装甲【テクターギア】を着け、右の拳と左の拳を交互に前へ繰り出していた。

単純な動作ではあるが、テクターギアを身に着けたままでは普通に動くことすら難しく、常人ではテクターギアを着けただけで圧死してしまうほどの重量があるのだ。

さらにテクターギアは、関節部にわざと負担がかかる仕組みになってある特訓用のギプスのようなものでもあり、彼はこれを装着した状態で何度も正拳突きを繰り返していたのだ。

しかし何度も繰り返すうちに、さすがに体力が続かなくなってきたのか、だんだん拳を繰り出す動きが鈍くなってきていた。

「おい、ゼロー！」

丁度良いタイミングで聞こえてきた声に、ゼロと呼ばれた彼ウルトラマンゼロは動きを止め、声のした方を向いた。

そこには、真っ赤なボディで、燃える炎を象った頭部の超人が、土手の上からゼロに向けて手を振っていた。

彼の名はグレンファイヤー。ゼロと拳で語り合い絆を深めた仲間だ。

グレンファイヤーは右手をゼロに向けて振り、左手にはコンビニの買い物袋を持っている。

ゼロが自分の存在に気付いたと察すると、すぐに駆け足で土手を駆け下りて来た。

「よう、頑張ってるなあ。そんな動きづらいもんまで着けて」

そう言ってコンビニの袋を差し出すグレン。中には栄養ドリンクの箱が入っている。

「まあな、とりあえず今日はまだ千五百十二億九千万五千九百八十八回までだ。目標の一兆回にはまだ遠いな……」

買い物袋を受け取ってゼロが言った。
それを聞いたグレンは驚いて、

「151290005988回！？　すごいキリの悪い数字だな、読むの大変じゃないか？」

「だから俺が漢数字で、お前が算用数字で表記したんだろ？」

「そうか………て、俺ら一体何言ってるんだ？」

「さ、さあな！」

気を取り直してゼロは、テクターギアを着けた状態で栄養ドリンクの蓋を開け、一気に飲み干した。

「ぷはっ！　いやあ、いつも悪いなグレン」

「いितてもんよ。どうせ暇だしな」

「おいおい、そんなこと言ってるいいのか？　今度のテストで赤点取っても知らねえぞ？」

「ウ……そ、そうだな、やっぱ勉強もしかねえとなあ……」

グレンはふいに遠くを見た。

今後の事を考えているのか、それとも何も考えていないのか、よくわからないが、今のゼロには正直どうでもよかった。

自分の今の目標を達成するために、他人の事を考えている余裕はないからだ。

「さてと、じゃあ続けるかな……」

再び正拳突きของ構えをとるゼロに、グレンも正気も戻り、

「お前もよくやるやな、どうしてそこまでやる気になれるんだか」

「そりゃあもちろん、“あいつ”に勝つためさ」

「なるほどな。俺はもう絶対に勝てないと諦めてるが……」

「グレン、そういう思考はよくないぞ。何事もやればできると思わないとな!」

「そう言われてもな……あの強さは正直戦う気力が失せるぜ……」

グレンは溜め息をつくど、ひたすら正拳突きを繰り返すゼロの隣に腰をおろした。

太陽はまだ、昇りはじめたばかりであった。

ゼロが言う“あいつ”とは誰か?

それは、数日前にさかのぼる……。

プロローグ（後書き）

最初に言っておく！

これだけで期待しないように……（＾―＾；）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0403z/>

MIND GENERATION CONTACT IF

2011年12月1日17時54分発行